

ベンチからの支え

中 三

私がまだ小学生のとき、従姉妹の家に遊びに行った。そこで、三つ年上で中学二年生の従姉妹が、ちょうど学校の練習試合があると聞いて部活動の試合を少しだけ見に行った。従姉妹は、女子バスケットボール部に所属していた。従姉妹だけでなく、他の選手もみんななかつこよく、とにかく一生懸命、楽しそうにプレーしていた。

そこで、少しおかしいことに気付いた。ある選手がシュートを決めて、拍手で盛り上がっている中、ベンチの方を見ていると、一人だけ試合に出ている選手がいた。その選手を何気なく見ていると、試合に出ている選手にたくさん指示を出したり、たまには叱つたりもしていた。私はその時、「何で試合に出ているのに、一生懸命プレーしている選手に対して怒るのか。」と不思議に思っていた。先に従姉妹の家に帰りくつろいでいると、疲れた様子で従姉妹が帰ってきた。私は、従姉妹とテ

レビゲームをしたり、猫とたわむれたりしたが、さっきの試合のことが気になっていた。思いきって従姉妹に、試合中、ベンチにいた選手について少し聞いてみようと思った。そうしたら従姉妹が、「ベンチにいた子はね。Aちゃんと言うんだけど、生まれつき身体が不自由なんだって。でも、バスケが大好きだから、試合に出られなくても続けていくんだって。」

そういう思いもよらない答えが返ってきてびっくりした。私は、バスケットボールが下手で試合に出られないのだと思っていた。だから、試合に出られない理由を勝手に決めつけていた自分に苛立ちを感じ、自分が情けなく思った。よく考えてふり返ってみると、Aちゃんは怒るだけではなかった。試合中は細かくノートに記録し、ベンチに帰ってきた選手には指示をし、すかさず水筒とタオルも渡していた。Aちゃんはチームの一員として、自分ができることを一生懸命やっているのだと初めて気付いた。と同時に、かわいそうとも思った。あれから何年か経って、私自身も中学三年生になり、部活動ができる期間もあと少しになった。

よく練習試合や大会があり、そのたびに相手チームのベンチを見ると、試合に出られなくて、暇そうにしていたり、応援をしない選手を目にした。その姿を見たとき、ふと昔見ていたAちゃんを思い出した。「Aちゃんのように、全力で応援するのがカッコいいのにな。応援をしない選手は、もつたいたいな。」と思った。Aちゃんが試合に出られなくても、自分のできる限りを尽くし、チームのために影で支えている姿を、私は見習うべきだと思った。

このような体験をして、世の中の人々にも、かわいそうというよりも、「もつとその人の良い所、頑張っている姿を見つめてほしい。」と、私は心から思う。その人から学ぶことはたくさんある。だから、「人から学び、身体の不自由な人と支え合って、その人の『本当の姿』を見てほしい。」と思った。